

投票してみよう！！

東京都知事選挙模擬投票

オリンピックの開催が決定した東京。大きなイベントを控えるだけでなく、日本の中心都市である東京が抱える様々な課題に対する各候補者の政策が出され、注目されていました。また、近年では若者の低い投票率で、選挙への関心が弱くなってきています。そこで選抜特進文理コース2年生では、将来の有権者である生徒たちの選挙への関心を高めるため、政見放送や新聞記事などを通じて実際の候補者について調べ、今回の東京都知事選挙で誰に投票するのかを考えていき、模擬投票を実施してみました。



投票率の低さの問題点、若者世代の選挙離れの問題点を説明。

興味がないから投票に行かないのではなく、選挙は自分達の生活に大きく返ってくることを意識することが大切です。

新聞に掲載された各候補者の政策を読み、実際に放映された政見放送を見て、皆さん必死にメモを取って聞いています。このメモを生かしてどの候補者の政策が自分の考えに近いかを考えています。



遊び半分でスタートした生徒も多かったですが、「原発についてどう考える？」というつぶやきに、「自分の住んでいる東海村の原発施設がなくなったら、どうなるだろう？」といった自分の生活に照らし合わせて、自分の意見を考えている生徒もいました。

また、見慣れないはずの政見放送であったのが、「この候補者の政策って分かりにくいし、内容が薄いように感じる。」というような意見の一方で、「この候補者の放送は政策が分かりやすくいいよね。」という意見が見られました。

このような各候補者の政策を生徒がまとめていったあとで、



生徒達は、数名でグループになり、注目する政策を中心に立候補者について討論し、各グループの代表者が、グループで討論した結果について発表しました。それぞれ重視する政策が異なり、注目した政策の重要度を短い時間でまとめて、発表していました。

なぜこの政策に注目したかを、実施できた場合の有効性をしっかり説明して、自分達の意見を主張しています。



この討論の終了した数日間、投票日まで生徒たちの日常会話の中では誰に投票するかという話がチラホラ聞こえていました。

生徒たちが、誰に投票するか考えている一方で

その間、先生たちは・・・



この選挙をよりリアルなものにするために、本番で使われる投票箱や、投票の際に記入する机などを水戸市選挙管理委員会からお借りしてきました。また、書道の先生に協力してもらって、立派な立て看板も作りました。臨場感のある投票所作成を目指して、せっせと準備する先生方です。

選挙管理者・立会人役の先生のスタンバイOK！！

準備完了！！ついに投票開始です。





まず、事前に配付された投票所入場券を受付係に提出し、投票用紙を受け取ります。

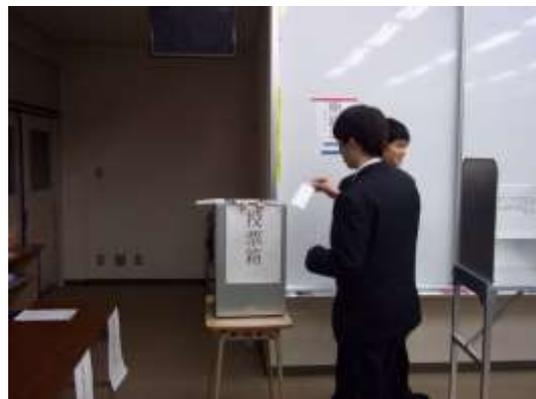
投票用紙を受け取った後は、



これまで考えてきたことを書きこみます。候補者の氏名を間違えないように慎重です。

さあ、自分の一票はどのような結果となるか。初めての投票です。生徒達も真剣な眼差しで行っていました。

数日後。



施錠をして保管した投票箱を開封する 때가 来ました。

実際の都知事選の後、2月10日（月）のことです。



施錠した投票箱を開ける 때가 来ました。鍵を保管していた先生が鍵を開けます。

投票箱の中に生徒たちの一票が。



投票用紙が投票箱に残っていないことを確認。

さあ、集計です。



集計は全て生徒達で行いました。

都知事選の結果は、舛添氏でしたが、さて結果は？

有効投票数：51票

当選	舛添 要一	19票
次点	田母神 俊雄	13票
	細川 護熙	8票
	宇都宮 健児	6票
	マック赤坂	3票
	家入 一真	1票
	ドクター・中松	1票

実際の選挙と同じ結果として、舛添氏が本校の投票では当選となりました。

事後のアンケートの結果（回答数50）から

模擬選挙の授業を受ける前に選挙に対する意識で「あまり関心がない」「全く関心がない」という生徒が、62%と8%と関心が薄いことが分かります。

しかし、授業後の意識として「立候補者の考えをよく調べて投票したい」、「投票には必ず行きたい」という生徒が44%と8%、「投票には出来るだけ行きたい」という生徒が40%と、選挙への意識が高くなっていました。

また、感想の中には

「本格的でびっくりした。実際どんな風に行われているのか、想像がついた。政治について興味も持つことができた。日本の現状がどのようなのかも少し分かった。」

「選挙というものをしっかり考えたことがなく、何人もの立候補者の意見を理解し、一人選ぶということはとても難しかった。今回は東京であったが、自分の住む場所の選挙のときは今回の経験を生かして自分の一票を入れたいと思いました。」

という感想がありました。今回の取り組みは生徒たちにとって、選挙を深く考えるきっかけになり、実りの多いものでした。